

くつろぎ通信 新春号

平成25年1月28日発行

久保みずきレディースクリニック ひなた産院 泉レディースクリニック 久保みずき女性・検診クリニック

Dr.ヒロのひとりごと

「胸を張れ、誇り高く生きよ」

あけましておめでとうございます。昨年の10月、山中先生がノーベル賞を取られた時に、記者達に感想をきかれ、「一言で言えば『感謝』』としか言えませんが」とおっしゃっていました。僕も昨年を振り返って、『感謝』の言葉を皆様にしつかりと申し上げたいです。「みなさん、大変な一年でしたが、よく頑張りました。ありがとうございました。感謝しています。」

菅原先生は、同じ10月に亡くなられたのですが、みんながとて不安な気持ちになり、人生ってなんて理不尽なものなのかとか、自分の人生で為さねばならぬ仕事ってなんなんやとか、色々なことを先生の生き様を通して悩みました。先生が亡くなられた今、先生の肉体はもうこの世にはないのですが、先生の患者さんに対する愛情や優しさ、そしてどんな時も怒ったこともない、優しい笑顔は、そのまま残された僕達一人一人の心の中に脈々と生きています。

人の幸福を願う、人の幸福を第一に考えて仕事をやる。そして、いつも人に感謝して生きていく。たとえ、人生がいくら理不尽なものでも、前向きにポジティブに生きていくことを、僕は決意しました。今年もみんな、力を合わせて笑顔で頑張ってください。

「今日の今を生きよ。生きぬけよ。だまって今日のわらじはく。」——山頭火——

Dr.サオのひとりごと

思いもかけず、院長になってから、はや3ヶ月が経ちました。日々の診療で私に大事にしていることを、お話させていただきます。不妊外来では、なるべく、患者さんの希望に沿いながら、患者さんと一緒に治療を進めていきます。しかし、必要な治療はタイミングを逃さずに、率直に提案して、妊娠・出産というゴールに向かっていきます。

産科で特に力を入れたいのは、母児分離をなるべく減らす、ということです。母児分離とは、出産後、お母さんや赤ちゃんの状態が悪くなって、治療のために母児が離れ離れになるという事です。妊娠中としてお産中、タイミングを逃すことなく、必要な医療を行って、産後にお母さんと赤ちゃんが当たり前のように一緒に居られるようにしたいと思います。

最後にクリニックの名称が久保みずきレディースクリニック美賀多台診療所から菅原記念診療所に変更になりました。私、この変更はとっても良かったなと思っています。菅原先生が亡くなったから、お産や手術で何回か今の状態危ないな、出血止まるかな、という状況になりましたが、その度に、菅原先生がああ懐かしい口調で「大丈夫、大丈夫」と言ってくれている気がしました。そうすると、心が落ち着いて、順調に治療が進み、事なきを得ることができたのです。何かあっても菅原先生が見守ってくれている、そ

う感じながら日々診療をしています。菅原先生、本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。

院長 石原尚徳

女性 検診クリニック 開院

初めまして、1月7日に開院した久保みずき女性・検診クリニックに婦人科医師として入職しました沢岬美奈子です。米軍嘉手納基地で有名な沖縄県の嘉手納町で生まれ育ちました。

出産という喜びの瞬間に立ち会いたいとの想いで、産婦人科医になりました。ハッピーなことばかりでなく、いろいろな年代でそれぞれの悩みを抱えている方と向きあうのが婦人科の実情です。女性の心と身体は奥深く、患者さんに成長させられていると実感する日々です。

医師として15年目、新たな環境で一人でも多くの女性を元気にするために、頑張りたいと思います。

女性・検診クリニック 沢岬美奈子



「50にして・・・」

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。さて、私は昨年の誕生日で50歳になりました。気は若いのですが、さすがに肉体の衰えとはこういうことかと実感するようになりました。先日は、ついに遠近両用

眼鏡をつくりました。白髪染めは10年以上前からですが、最近朝晩の育毛剤も欠かせません。(誰か良いのを教えて!)世の中、「アンチエイジング」という言葉が大流行です。確かにいたずらに老け込むよりも、見た目が若く活発な人のほうが魅力的です。しかし、「アンチ」を辞書で調べると、「〜に反対・敵対、〜嫌い」です。果たして老化は忌むべき敵でしょうか?伸縮しにくい鋼材は逆に折れやすいものです。高層ビルは、倒壊しにくいように地震に合わせて振動するように造られています。歳を重ねるにつれ、見えていなかったものに少し気付くようになってきました。多少経験も積み、性格も少しだけ丸くなりました。エイジングとしなやかに付き合っていけたらなと思います。片意地張らず、ひょうひょうとした50代を過ごしたいものです。

明石診療所 水木次郎



明けましておめでとうございます。冬休みが終わり、日常がもどってきました。小児科外来にも元気な赤ちゃんの泣き声が賑やかに響いています。娘は今年中学生になりますので、いつまでも外来で小さなお子さんと接する機会があるのはとても幸せなことです。

今も菅原先生が小児科の外来へ寄つてくださる気持ちがあります。お疲れさま、いつもすまないね。あの赤ちゃんどうですか?ザーッと患者さんのこと、スタッフのこと、いつもいつも他人の心配をし、気に掛けてくださる先生。夜中、具合の悪い赤ちゃんを私と救急車で搬送するときも心から心配をされていました。帰りのタクシーでは必ず、私にも珈琲を買って下さって、2人でいろいろな話をするのが定番で、私事も随分相談のついでにいただきました。明日からもまた日常が続きます。賑やかな声が響きます。菅原先生、見ていてください。先生のとりあげた赤ちゃん、みんな元気ですよ。先生の精神、私もスタッフも皆受け継げるように頑張ります。先生、見ていて下さいね。

副院長 石井彩子



新年あけましておめでとうございます。新しい年が明るい年でありますように、皆さまが健康で幸せな1年でありますように、心からお祈り申しあげます。最近感動したこと。

ヨイトマケの唄。久保先生の「日本一優しい医者になる」の書初め。一日一日を大切に、感謝の気持ちを忘れずに、楽しく毎日がんばります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

松尾泉



ひなたの花を届けたい

伊川の土手一杯に咲くタンポポのように、身近で寛げる助産院を目指して開院したひなた助産院も今年の5月で5歳になります。お蔭様でもなく500人目の赤ちゃんをお迎えることになり、感謝の心で一杯です。亡き菅原先生より「桜梅桃杏…そのひと・それらしく精一杯い

きること」を教えていただきました。その後ひなたの活動の中で助産師の私たちに何ができるのか考えていたところ、新年を迎えて菅原先生のお導きなのでしようか、校区の太山寺小学校より1〜2年生に「誕生・命

について」の授業のお話がありました。2月に早速させていただくことになり、「みんなが生まれたときにた

くさんの幸せを運んでくれたこと」「一番の宝物はみんなの命」など、こどもたちに伝えたいことをあれこれと知恵を出し合い一生懸命考えているところです。子どもたちが未来にそれぞれ見事な花を咲かせてくれるよう「桜梅桃杏」の心を是非伝えたいとも思っています。

これからはひなた助産院のスタッフが輪になって、伊川の土手にしつかり根を張り、精一杯咲かせた桜梅桃杏の『ひなたの花』をお母さんと赤ちゃん、ご家族に、そして広く地域の方々にもお届けしたいと思っています。

ひなた助産院 院長 大内久子

妊娠者2000人

今年に入ってすぐの1月11日、ついに当院にて不妊治療で妊娠された方が2000人を超えました。

これからも、一人でも多くの患者さんが、『久保みずき』から卒業していきけるように、スタッフ一同力を合わせて頑張ります。治療について気になることなどあれば、いつでも声をおかけください。

